**日本歯周病学会専門医研修施設プログラム チェックシート（2023.5.25更新）**

**下記全ての項目に当てはまる施設のみ，研修施設の新規・更新申請が可能です。**

**それぞれのチェック項目の□に印をつけてご提出ください。**

１.　一般目標（GIO）

歯周病学を通して国民の口腔保健の増進に貢献するために，歯周病学に関する基本的知識を身に付け，医療現場にて適切かつ迅速に対応するために必要な知識，および標準的な技能と態度を研修できる。

２．到達目標（SBOs）：

□歯周病学や歯周病治療の基本的な知識および技術

□医療安全に配慮した歯科医療を提供し，歯科医療に対する歯科医師の責任について研修できる。

□歯周病の診断，分類について「新分類」を研修できる（歯肉病変，歯周炎，壊死性歯周疾患，歯周組織の膿瘍，歯周－歯内病変，歯肉退縮，咬合性外傷）（Stage，Grade）

□日本における歯周病の罹患状況を研修できる。

□的確に標準的な医療を研修できる。

□歯周病学や歯周病治療への関わりと姿勢

□医療面接を研修できる。

□検査に基づいた診断を研修できる。

□予後の判定・治療計画の立案，ならびに患者への適切な説明と同意取得を研修できる。

□医科との連携を研修できる。

□多職種連携を研修できる。

□患者の全身的，生活的，社会的背景への考慮

□全身的因子と歯周病の関係を研修できる。

□全身性疾患（有病者・糖尿病）患者，高齢者への適切な配慮を研修できる。

□全身的，環境の各リスクファクターを勘案した歯周病治療を研修できる。
（特に高齢者，有病者：メタボリックシンドローム，肥満，糖尿病，高血圧，循環器疾患，透析患者，呼吸器疾患，妊婦，骨粗鬆症患者，喫煙者）

□在宅医療が必要な患者に対し，適切な歯周病治療・口腔内環境の管理方法を研修できる。
（セルフケアができる患者，一部介護，全介護患者に対する対応など）

□検査結果など客観的データや診断に基づいた考察

□歯周基本治療，歯周外科治療，口腔機能回復治療，各ステージ後の再評価検査を研修できる。

□歯周外科治療の実施条件を研修できる。
（①患者への説明が行われ同意が得られていること，②患者の全身状態がよいこと，③患者の口腔衛生状態がよいこと，④喫煙していないこと）

□根分岐部病変に対し，適切な検査と診断からの治療を研修できる。

□細菌感染，咬合力に関する配慮を勘案した適切な治療法（固定・ブリッジ・義歯・インプラント）を研修できる。

**３．研修状況について**

**貴施設の実態を把握したく，現時点での研修生の在籍状況を枠内に提示してください。**

**（記載例：「研修生在籍数：○名　内訳：研修△年目■名，研修▼年目＊名」）**